

# 長門市 世界大会等キャンプ 招致基本計画



平成 27 年 12 月  
長門市



ラグビーワールドカップは、15人制ラグビーフットボールのナショナルチーム世界一を決定する世界選手権大会で、1987年から4年毎に開催され、夏季オリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ、世界3大スポーツイベントのひとつに数えられています。

日本が南アフリカに対して歴史的勝利をあげ、1次リーグプールで3勝の戦績を収めたイングランド大会では、試合観客数が247万人を超え、日本国内でも、サモア戦のテレビ視聴者数は、2,500万人（瞬間最高視聴率25.2%）となりました。

2019年9月20日（金）から11月2日（土）の44日間で開催される日本大会では、総計48試合が国内12ヶ所で開催され、参加する20のナショナルチームは、日本の風土や気候に慣れ、試合前のコンディションを整えるために、大会前から日本を訪れ、キャンプを行います。

1次リーグプールと決勝トーナメントで試合会場が異なるため、チームは試合のスケジュールに合わせてキャンプ地を移動します。

ラグビーフットボールという過酷な競技であるが故に、試合と試合の間は、約1週間の期間が設けられることから、チームのみならず、マスコミやファンも含めた宿泊や飲食等による一定の経済波及効果が期待されます。

本市では、山口国体でラグビーフットボール（少年男子）競技を開催後、ラグビーワールドカップ2019のキャンプ招致で地元を盛り上げたいという機運の高まりの中、平成25年6月、民間と行政で構成する「ラグビーワールドカップ2019長門市招致委員会」が発足しました。

以来、キャンプ招致のための情報収集や機運醸成のためのマスコットキャラクター「ナガミー」の制作などを行ってきたところです。

このキャンプ招致は、地域経済への波及効果とインバウンドを起爆剤として新たな観光活力の推進に繋がるだけでなく、長門市を全世界へ発信し、本市の将来を担う子どもたちに、「世界を知り、世界への夢を抱かせる」絶好の機会となります。

そのため、これまで行ってきた招致に向けた取組をさらに発展させ、キャンプ招致の顔ともなる「クラブハウス」などの施設整備を積極的に進めるとともに、それらの施設のマネジメント方法を明確にし、併せて、スポーツ・文化・教育・観光・経済・農林水産業などの幅広い分野にもたらされる効果を未来へ継承していくための「レガシーアクションプラン」を策定するための基礎となる『世界大会等キャンプ招致基本計画』を策定しました。

本計画は、招致活動を通じたスポーツの推進と地域経済の活性化を融合したまちづくりを進めることにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストシティとしての取組や、更なるスポーツ合宿誘致の拡大につなげていくものとしています。

本計画に基づき、市民・地域・活動団体・企業、そして行政が一体となった「チームながと」での取組を進めていきます。

## 世界大会等キャンプ招致基本計画の位置づけ及び構成

本市においては、依山地域の美しい農山村や古い町並みの景観を保全しつつ、温泉やスポーツ施設等の地域資源を有効に活用したツーリズムを推進しており、交流人口の拡大を図るため国際的スポーツイベント(ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「世界大会等」という。))のキャンプ招致などを基盤とする「スポーツによるまちづくり」について、調査・研究を行い、依山多目的交流広場(愛称: 依山スパスタジアム)を中心とする交流施設の計画的な整備やキャンプ実施時に必要となる運営体制等の確立を推進するため『世界大会等キャンプ招致基本計画』(以下「本計画」という。)を策定する。

本計画は、全6章で構成する。

### 第1章 基本コンセプト

基本理念の「THE NEXT GENERATION～未来への継承～」を基に、世界大会等キャンプ招致の成功へ向けて、本市が取り組む4つの基本方針について明記する。

### 第2章 施設整備計画

ラグビーワールドカップ2019(以下「RWC2019」という。)については、本計画の策定時点で、キャンプ地に関するガイドライン等が示されていないことから、競技施設の配置等については、本計画を基に引き続き関係者等との協議を重ね検討を進める。

### 第3章 キャンプ招致計画

キャンプ受け入れ時の運営に必要と想定される宿泊施設、医療体制、衛生対策、警備・その他安全対策、レジャー・文化の機能を明記し、基本理念を踏まえた、各業務の方針、主要業務を記載する。

### 第4章 招致における効果

本市におけるRWC2019キャンプ招致に関して、経済的・社会的の両面からその波及効果を測定し、多くの人々に対し、多種多様なプログラムを通じて、招致活動を共に作り上げる応援者を最大化していくため、キャンプ招致による波及効果を明確にする。

### 第5章 レガシーアクションプラン

ラグビーワールドカップ2019長門市招致委員会(以下「招致委員会」という。)等、市内の各種団体が一丸となって、計画段階から大会後に残すべきレガシー(遺産)を見通した包括的な取組を推進する。

### 第6章 推進体制

キャンプ受け入れまでのロードマップを明らかにし、招致委員会をはじめ、国や山口県、関係者との連携・役割分担など推進体制の明確化を図り、組織内外の一体的な取組を推進していく。

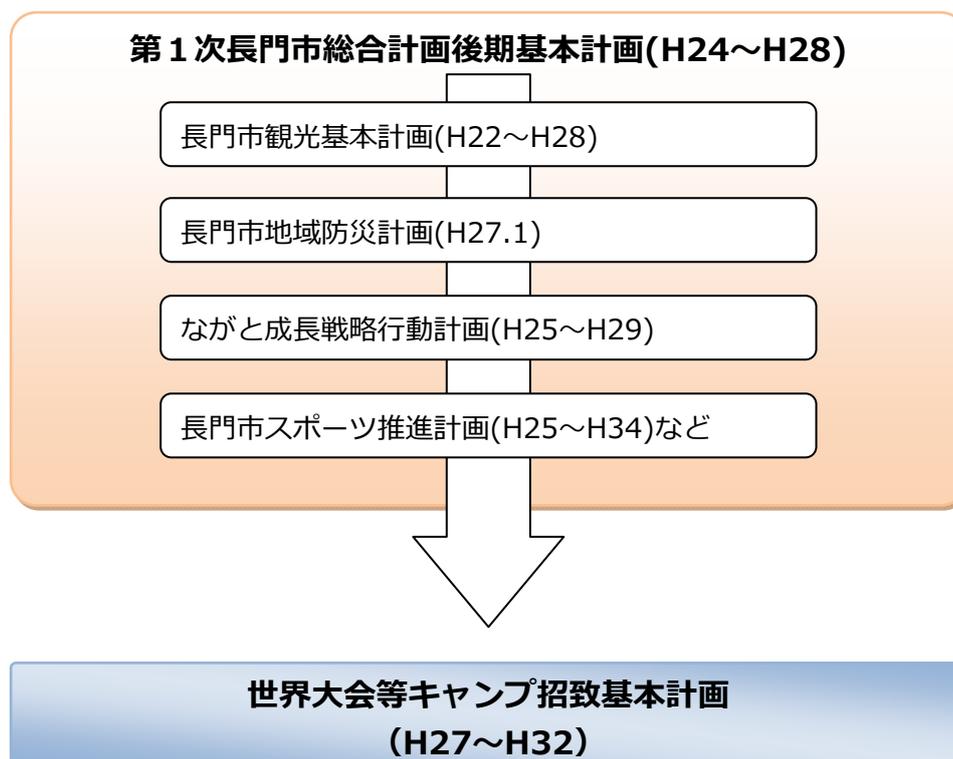
## 目次

第1章 基本コンセプト .....	3
第1節 上位計画との関連 .....	3
第2節 計画の実施期間 .....	3
第3節 基本理念（ビジョン） .....	4
第4節 基本方針（ミッション） .....	4
第2章 施設の整備方針 .....	5
第1節 メイン施設の整備方針 .....	5
第2節 メイン施設の主な施設整備の概要 .....	9
第3節 メイン施設整備に係る概算事業費 .....	12
第4節 その他サポート施設 .....	13
第3章 キャンプ運営計画 .....	16
第1節 宿泊施設 .....	16
第2節 医療体制 .....	16
第3節 衛生対策 .....	16
第4節 警備・その他安全対策 .....	17
第5節 レジャー・文化 .....	17
第4章 招致における効果 .....	19
第5章 レガシーアクションプラン .....	21
第6章 推進体制 .....	22
第1節 組織等の連携 .....	22
第2節 キャンプ招致成功へ向けたロードマップ .....	23
第3節 計画の見直し及び進捗管理 .....	26

## 第1章 基本コンセプト

### 第1節 上位計画との関連

本計画は、『第1次長門市総合計画後期基本計画』（平成24年度～平成28年度）及び『ながと成長戦略行動計画』（平成25年度～平成29年度）や『長門市地域防災計画』（平成27年1月策定）、『長門市観光基本計画』（平成22年度～平成28年度）、『長門市スポーツ推進計画』（平成25年度～平成34年度）などの取組の方向性を踏まえ、本市の世界大会等キャンプ招致実現へ向けた施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項をより具体化するものとする。



### 第2節 計画の実施期間

本計画の実施期間は、平成27年度（2015年度）から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が終了する平成32年度（2020年度）までの6年間を計画期間とするが、計画を進捗する段階で策定するレガシーアクションプランに関しては、本計画の実施期間に関わらず、可能な限り継続することとする。

なお、本計画に基づく施策の実施に際しては、今後、ラグビーワールドカップ2019組織委員会（以下「組織委員会」という。）から示される予定である「ラグビーワールドカップ2019キャンプ地に関するガイドライン（仮称）」（以下「ガイドライン」という。）に的確に対応するため、ガイドラインが示された段階等で見直しを図るものとする。

## 第3節 基本理念（ビジョン）

**THE NEXT GENERATION****～ 未来への継承 ～**

「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」

2011年、おいでませ！山口国体の開催を契機に培われた地域連携の深まりと郷土の誇りは、推進力となり、長門市の次世代の飛躍へと繋げる『ラグビーワールドカップ2019キャンプ招致』活動が始まった。

長門市の世界大会等キャンプ招致活動は、『THE NEXT GENERATION ～未来への継承～』を基本理念とし、活動がキャンプの招致実現に止まることなく、子どもたちの将来へ、長門市の未来の都市整備へと繋がるように計画し、取り組むものとする。

## 第4節 基本方針（ミッション）

キャンプ招致に関わる業務は、多岐に渡るため、産官学・異業種が一体となり組織する「ラグビーワールドカップ 2019 長門市招致委員会」が中心となり、市民一人ひとりの力を結集し、取り組むことが重要である。

一人と一人の繋がりが線となり、線から面（二次元）へ、面が集まり立体（三次元）となるように、キャンプ招致に関わる業務を、あらゆる視点から考察し、招致に関わる全ての人々がラグビーの基本的精神「ONE FOR ALL , ALL FOR ONE」に則って取り組むことで、今に至る線が未来へと繋がる強く太い線とするために次の4つの基本方針を基に事業を推進する。

## ミッション1

**For The People**

～ 誰もが関わることができる取組を推進する～

## ミッション2

**For The Dream**

～ 子どもたちが夢を持てる取組を推進する ～

## ミッション3

**For The Community**

～ 地域経済の発展に繋がる取組を推進する ～

## ミッション4

**For The World**

～ 交流を育む取組を推進する ～

## 第2章 施設の整備方針

施設の整備にあたっては、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できることに加え、通常の利用者の要望等も可能な限り取り入れ、施設配置や輸送計画についても十分な配慮をする必要がある。

また、通路のバリアフリー化などユニバーサルデザインにも配慮し、キャンプ受け入れ後も広く地域住民に活用されるよう、多様性と調和を取り入れた会場をデザインすることが肝要である。

その上で、恒設的に整備する施設、仮設で対応する施設等を見極めながら施設を整備していく。

### 第1節 メイン施設の整備方針

メイン施設の整備は、世界大会等のキャンプ招致活動に係る『最大のレガシー（遺産）』となることから、スポーツ施設としての将来の利活用も見据えたうえで、地域の防災や周辺環境への配慮・エネルギーの再資源化など様々な機能を兼ね備えた「依山地域のスポーツ交流拠点施設」として、以下に掲げる項目を整備方針として踏まえ整備する。

- ① トップチームの事前トレーニング（キャンプ）ができる施設
- ② 西日本ラグビーの交流拠点となる施設
- ③ 防災拠点としての機能を兼ね備えた施設
- ④ エネルギー再利用・環境保全に配慮した施設
- ⑤ スポーツ施設・学校体育施設へ事業展開ができる施設

#### ① トップチームの事前トレーニング（キャンプ）ができる施設

世界大会等のキャンプ地誘致に止まらず西日本屈指のトップチームの合宿地となるよう、トップチームの公式戦等大規模イベントが開催可能な施設として計画する。

また、バリアフリー化などのユニバーサルデザインにも配慮するとともに、観覧者が急な降雨や炎天下でも快適に過ごすことができる利便性を兼ね備えた「スポーツの憩いの場」となるように計画する。



クラブハウスイメージ図



観客席イメージ図

## ②西日本ラグビーの交流拠点となる施設

ねんりんピックおいでませ！山口 2015、世界大会等キャンプ招致活動を通じて、関西圏、四国圏及び九州圏から、あらゆる年齢層の多くのラグビー関係者が集うイベントや合宿等の開催を計画し、競技スポーツにも生涯スポーツにも対応する「西日本ラグビーの拠点」となる施設を目指す。



交流人口の流れ

## ③防災拠点としての機能を兼ね備えた施設

依山多目的交流広場は、放射状に広がる山間地の浴浴いに居住区域を持つ依山地区の中心部に位置することから「地域防災の拠点」としての機能を兼ね備えたスポーツ施設として、非常時の避難場所としても活用できる施設となるよう計画する。

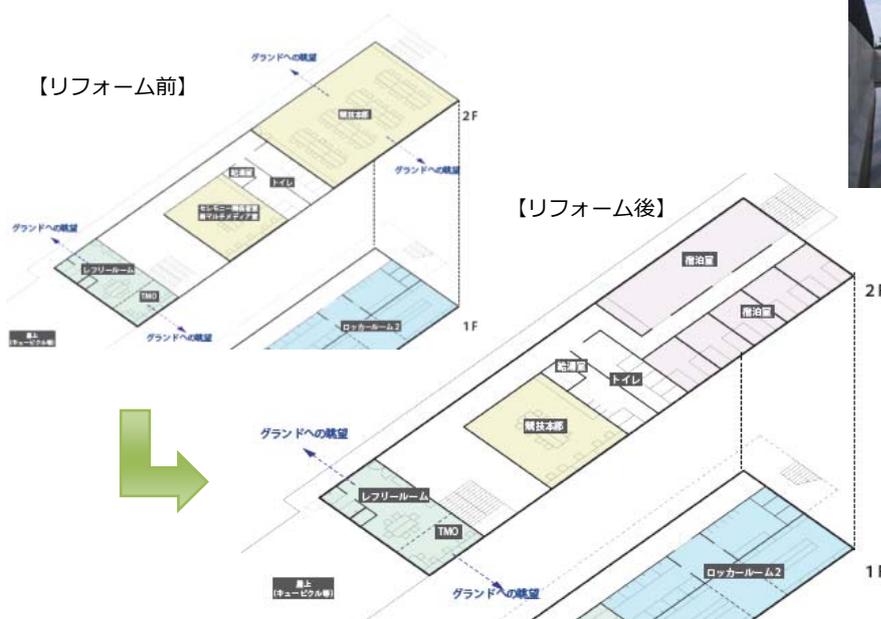


依山多目的交流広場周辺の居住区域

また、平常時には、宿泊可能なスポーツ研修施設として活用し、平日は、企業等の人材育成研修施設として、利用促進を図るとともに、休日には、

スポーツ合宿の拠点として、地域温泉旅館の利用促進に資する施設となるよう計画する。

さらに、造成工事に伴い、調整池の整備が必要となる場合には、調整池の内部を降雨時以外に利用可能な駐車場として整備することを検討する。



クラブハウスを宿泊対応施設へリフォームしたイメージ図



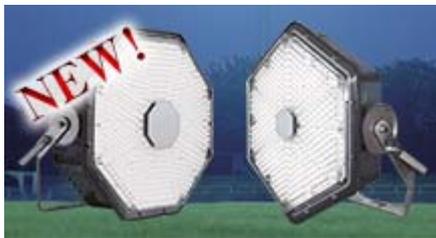
駐車場機能を備えた調整池のイメージ図

## ④エネルギー再利用・環境保全に配慮した施設

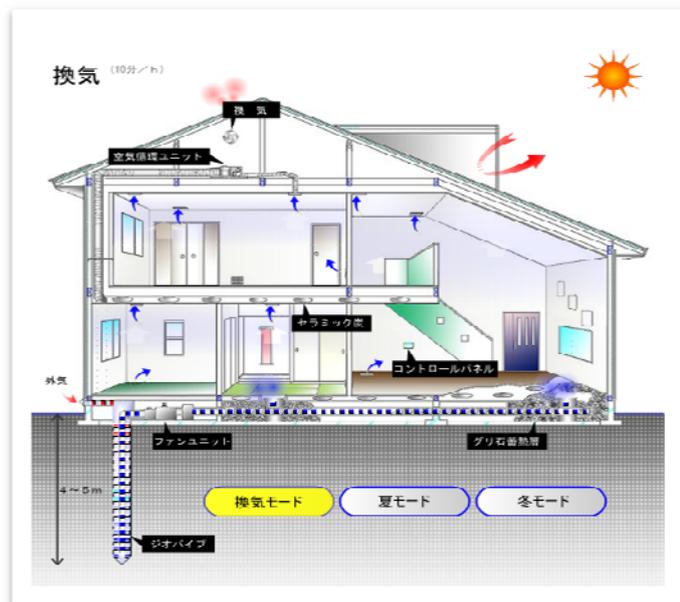
世界大会に関わる施設として、日本が目標として掲げる温室効果ガスの2020年25%削減（1990年比）に対処するため、省エネルギーに適した空調、照明設備等の導入促進を図ることを検討する。

エネルギー再利用や環境保全に配慮したシステムを採用する場合には、地域ブランドを世界に発信することや導入実績・効率等も考慮しながら、防災にも対応するシステムの導入を検討する。

また、メイン施設の整備に際しては、整備後の維持管理におけるエネルギー再利用や省エネルギー化についても、天然芝散水の雨水利用や刈芝の再利用（コンポスト化や校庭等の芝生化など）など検討する。



最新の省電力LED  
夜間照明設備例



検討システム例  
「地中熱交換システム」

⑤スポーツ施設・学校体育施設へ事業展開ができる施設

先進国においては、「グラウンド＝天然芝」、スポーツ施設や学校体育施設で芝生化されていないグラウンドを探す方がむしろ難しいという環境である。

一方、日本国内における芝生化整備率は、全国調査の結果 6.3%（平成 25 年度文部科学省調査）、市立小・中学校の芝生化整備率全国トップクラスを誇る静岡県磐田市は 54.5%となっている。

世界大会に関わるまちとして、市民のスポーツ環境も世界基準へと近付け、市民の健康増進を図るため、依山多目的交流広場を「グラウンド芝生化の拠点施設」とし、整備や維持管理が簡便でコスト負担が少ない「磐田方式」や「鳥取方式」を採用するなどし、市内グラウンドの芝生化事業に取組、住みよさ日本一、魅力ある学びの環境「日本一」のまちづくりを目指す。



更新作業（コアリング）



抜き取られたコア



コア拡大写真

● コア工法により芝生ができあがるまで



磐田方式による芝生化施工例

## 第2節 メイン施設の主な施設整備の概要

## 1) クラブハウスの新設

## ① クラブハウス計画に係る基本的な考え方

クラブハウスの整備にあたっては、キャンプ受け入れ時において必要な機能を確保するとともに、キャンプ受け入れ後においても、継続的な利用促進に資する整備とすることを前提として、以下の基本的な考え方に基づくものとする。

- ・ RWC2019 等のキャンプ受け入れ時においては、施設整備の基本的な考え方等を踏まえ、必要な機能を確保した諸室構成とする。
- ・ RWC2019 等のキャンプ受け入れ後においては、当該クラブハウスの簡単なリフォームによって、宿泊も可能な「防災拠点施設」または「スポーツ研修センター」として活用することが可能な諸室構成とする。

## ② 諸室の基本条件（キャンプ受け入れ時）

クラブハウスの諸室基本条件は、以下に示すとおりである。

諸室	基本条件
エントランスホール	・エントランスホールは、施設利用等に係る情報発信機能、飲み物などの自動販売機コーナー等を併設する。
事務室	・常駐職員2名程度のスペースを確保する。 ・施設利用の受付機能を行える配置とする。
ロッカールーム	・1チーム30人が収容可能なスペースを2室確保し、簡易な間仕切り等で4室へ変更可能な仕様とする。 ・各ロッカールームには、8基低度のシャワー及びトイレを併設する。
レフリールーム	・6名程度が収容可能なスペースを確保するとともに、テレビマッチオフィシャルのためのスペースを確保する。 ・2基程度のシャワー及びトイレを併設する。
医務室	・2台程度のベッドを収容可能なスペースを確保するとともに、ドーピングルームとしても利用可能にする。
競技本部	・キャンプ受け入れ時における関係者等の競技本部として、必要なスペースを確保する。
セレモニー関係者室兼マルチメディア室	・キャンプ受け入れ時における関係者室として、また、メディアによる取材等のための居室として、必要なスペースを確保する。
一般用トイレ	・クラブハウス利用者以外の観覧者等一般利用者を対象としたトイレとして、多目的トイレを含めて確保する。
その他	・レイアウトに応じて、キュービクル機械室、競技用具専用の倉庫を確保する。

## ③ キャンプ受け入れ後のリフォームに関する基本条件

キャンプ受け入れ時	キャンプ受け入れ後	基本条件
競技本部	宿泊室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ受け入れ時の競技本部のスペースを、2段ベッド等を備えた宿泊室（小）及び宿泊室（大）にリフォームする。</li> <li>・宿泊室（大）は、利用者のミーティングや食事の場所としての利用も想定する。</li> </ul>
セレモニー関係者室兼マルチメディア室	競技本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ受け入れ時のセレモニー関係者室兼マルチメディア室は、受け入れ後においては、関係者等の競技本部としての利用を想定する。</li> </ul>

## 2) 夜間照明設備の新設

スポーツ交流広場は、依山スパスタジアムのメイングラウンドとして、夜間・早朝における競技に対応した照明設備を設置するものとする。

スポーツ照明の所要照度は、下表に示すように、JIS 照度基準(JIS Z 9110)によって維持すべき照度の平均値が定められている。

表：JIS 照度基準(JIS Z 9110)によるスポーツ照明の維持照度

運動競技区分	維持照度 (lux)
公式競技	500 以上
一般競技	200 以上
レクリエーション	100 以上

上表に基づき、スポーツ交流広場においては、競技成績が公認記録として残される一般競技の照度基準である 200lux 以上の照度を確保することを基本とする。

照明設備の配置については、グラウンドの両サイドが後述するように観客席を増設することとしており、またグラウンドと観客席の間にも余裕スペースが無いことから、4つのコーナーへ照明柱を配置する。

## 3) 観客席の増設

## ① 既存観客席の延長

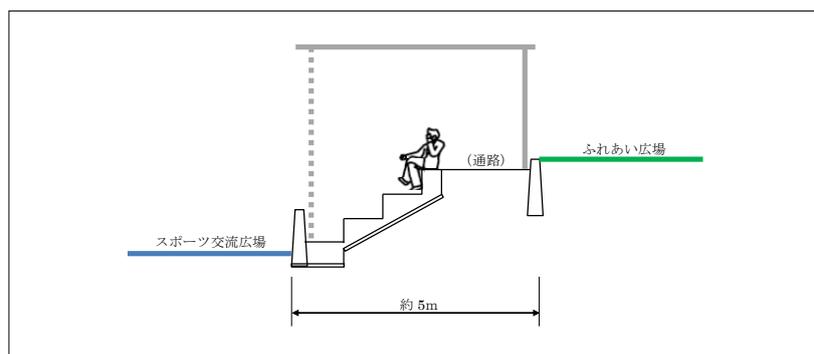
- ・スポーツ交流広場の西側切土法面を利用して、現在一部設置されているものと同程度の観客席（5段程度）を延長した観覧席を設置する。



スポーツ交流広場の既設観客席

## ② 観客席の新設

- ・スポーツ交流広場とふれあい広場の間の芝生観覧席のスペースを利用して、3段程度の屋根付き観客席を設置する。
- ・観客席天端には、バリアフリーを考慮するとともに、ふれあい広場の展望も確保するため、一定幅員の通路を設置する。
- ・北側端部において、グラウンド内や観客席へのバリアフリー動線及びバリアフリースペース（車椅子等に対応した観客スペース）を設置する。



屋根付観覧席のイメージ図

### 第3節 メイン施設整備に係る概算事業費

メイン施設整備に係る概算事業費は、下記のとおりであるが、最近整備された他施設を参考に算出した概算額であり、今後の詳細検討や整備費等の動向などにより変動する可能性がある。

なお、整備にあたっては、可能な限りコストの縮減に努めるものとする。

表：メイン施設整備にかかる概算事業費

項 目	金額（千円）	備 考
①測量・試験・設計		
地形測量及び地質調査	16,200	
スポーツ交流広場改修実施設計	6,300	
クラブハウス基本・実施設計	39,200	
照明設備基本・実施設計	8,400	
小 計	70,100	
②グラウンド・附帯設備等工事		
スポーツ交流広場改修	22,900	
夜間照明設備	65,300	
給水管散水栓改修	2,000	
観客席整備	85,900	
天然芝養生・その他補完工事	101,500	
小 計	277,600	
③クラブハウス工事		
クラブハウス新築	244,800	
クラブハウスリフォーム	14,500	
小 計	259,300	
合 計	607,000	

※金額は消費税及び地方消費税を含む額

②③は、平成29年4月1日の消費税法改正税率（10%）で算出した額

## 第4節 その他サポート施設

## (1) 宿泊施設（チームホテル）

選手団の宿泊施設については、RWC2011 において、以下のような要件が示されている。

このような要求に対応可能な現有施設である湯本温泉に立地する大型旅館を選手団の宿泊施設として活用することとする。

また、宿泊施設における飲食サービスは、できる限り柔軟できめ細やかな対応や食文化及び食品（特にドーピングの禁止物質）に配慮し、チームによっては、栄養士や料理人が帯同することがあるため、宿泊施設と緊密な連携を図り、フレキシブルな対応が取れる体制を整える。

なお、選手団の宿泊に際し、外国語への対応、宗教上の理由によるタトゥーへの理解等、従業員の教育についても行うものとする。

表：RWC2011 における宿泊施設の要件と対応方針

項目	要件	対応方針
質	・ 4～5 星レベル	－
立地	・ 練習会場、試合会場から車で 30 分以内	－
部屋	・ シングル 19 部屋、ツイン 15 部屋。場合によっては通訳用にシングル 1 部屋追加 ・ ツインは、バスルームを除いて 25 m <sup>2</sup> 以上が好ましい。 ・ できれば同じフロア、別棟がある場合は同じ建物内。	・ 居室の改修 ・ 洋室化
食堂	・ 食事は、一般客とは別の場所で提供されること。8 人掛けテーブル 6 台（約 100 m <sup>2</sup> ）の広さ。 ・ 食事会場は、広いスペースであればミーティングルームやレジャールームと共用可能。 ・ 基本的にはビュッフェスタイル。	－
その他 スペース	・ 教室形式 45 名収容のミーティングルーム（約 60 m <sup>2</sup> ） ・ 卓球、大型テレビのためのレジャールーム（約 80 m <sup>2</sup> ） ・ ホテル提供の冷蔵庫がチームのレジャールームに必要。 ・ スナックサービスも必要なため、レジャールームにトーストやプロテインシェイクができる施設を整備すること。 ・ メディカルルーム ・ 荷物室（荷物 4 トン） ・ 記者会見室（教室形式で 10～15 名着席、テレビカメラなどが入れるスペースが必要） ・ ドーピングコントロール用の部屋の提供を求められる場合がある。	－
設備	・ マルチタップコンセントがあること。 ・ 部屋及び共有スペースにインターネット回線（有線または Wi-Fi）があった方がよい。 ・ ケータリングとは別に氷用の冷蔵庫を提供すること。	・ 未対応の場合は設置
駐車場	・ バス 1 台、車 3 台、荷物車 1 台の駐車場。	－

※チームによっては希望内容が違っているので、随時調整、対応することとする。

## (2) トレーニング施設（屋内練習施設）

選手団のトレーニング施設については、RWC2011 において、以下のような要件が示されている。

このような要件に対応可能な現有施設として、ながと総合体育館（ルネッサながと）を想定し、チームの要求水準に応じて設備の導入（リースを含む）及び必要な改修等を行い、選手団のトレーニング施設として活用することとする。

また、依山スパスタジアムに近接する依山中学校の屋内運動場についても、利用が可能か調査・研究する。

表：RWC2011 における屋内練習場の要件と対応方針

要件	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低でもバックラインの練習ができる、バスケットコートのあること。</li> <li>・ラインアウト練習に十分な高さがあること。</li> <li>・バスケットやサッカーができる機材があること。</li> </ul>	【ルネッサながと】 ●メインアリーナ (45.0m×34.0m) ・バレーボール：3面 ・バスケットボール：2面 ・バトミントン：10面 ・卓球：15面 ・テニス：2面

表：RWC2011 におけるジムの要件と対応方針

設備	数量	対応方針
オリンピックバーベル (20kg)	6	【ルネッサながと】 ●トレーニング室 (22.0m×13.5m) ●軽運動室兼研修室 (22.0m×13.5m) ●既存設備：エアロバイク、ルームランナー、フィットネス器具、トレーニング器具など 20 種類：35 台 ●対応方針：不足する設備の導入と設置のための改修を検討する。
ウェイト (ラバープレート) 10~25kg		
パワープラットフォーム	2	
リフティングブロック	2ペア	
プライオメトリック台 (高さ 20,30,45,60,75,90)		
メディシンボール 5,8,10kg	各 2	
スクワットトラック	2	
フラットベンチプレススタンド	2	
アドジャスタブルベンチ	2×2	
Triple Cross Cable Rack (鉄棒付き)		
ダンベル 1~25kg、50,55,60kg ペア		
バックエクステンションフレーム		
心肺向上マシン (エクササイズバイク、スピンバイク、ルームランナー、コンセプト2ローイングエルゴメーターなど)		
ストレッチマット	6	
スイスポール	6	



### (3) プール

プールは、主に選手が練習後に体の冷却を目的にリカバリーに使用することが多い。過去に示された要件としては、

- ・ 25mプールのうち、3レーンを専用使用できること
- ・ 国やチームによっては、水泳競技用キャップの着用が一般的でないため施設管理者や一般利用者への周知と理解を得ること
- ・ 文化としてタトゥーを入れている選手があり、同様に理解を得ること

などがある。

本市においては、民間スポーツ施設や学校プールの利用等を念頭にキャンプ実施までに上記要件を整えておく必要がある。

また、プールの補完設備として、メイン施設内へアイスバスや製氷機を設置するなどの対応も必要となり、チームの要求水準に応じて必要な設備の導入（リースを含む）を検討する。

## 第3章 キャンプ運営計画

### 第1節 宿泊施設

#### 1) チームホテル

選手団の宿泊施設は、前章のとおり、ガイドラインに従って対応するが、長期に渡り日本に滞在する選手団の衣食住の「くつろぎ」の空間となるよう、また、選手団に帯同する家族等との「やすらぎ」の空間にもなるよう、長門市独自の『おもてなし』とサービスを展開するため関係機関と連携し、選手団へ提供できるように努める。

#### 2) その他来訪者

その他来訪者の宿泊は、それぞれに特色のある「長門温泉郷5名湯」の宿泊施設を積極的に売り出すとともに関係機関と連携し、長門独自の『おもてなし』についても研究し、宿泊客へ提供できるよう努める。

また、飲食サービスについては、『ながとブランド』を世界に発信できるよう、関係機関との連携のもと、積極的に提供し、PRに努めることとする。

### 第2節 医療体制

選手団等の傷病発生に速やかに対処するため、関係機関の協力を得て、キャンプ会場に救護所を設置するとともに、応急処置及び必要に応じた医療機関への移送等、医療救護体制を整える。

また、競技の特性を鑑みて整形外科、脳外科の専門医が常勤し、CT、MRI等の検査や脊椎損傷、頭部外傷に対応可能である後方支援病院の確保に努めるとともに、ドクターヘリコプターによる緊急搬送体制も整える必要がある。

なお、診療行為にあたっては、ドーピングの禁止物質に十分留意するよう関係機関に周知する。

### 第3節 衛生対策

#### 1) 防疫対策

来場者等の感染症発生を防止するため、関係機関の協力を得て、防疫体制を整えるとともに、市民の防疫意識の普及・啓発を図る。

#### 2) 食品衛生対策

来場者等の飲食物の安全を期するため、関係機関の協力を得て、宿泊施設及び食品取扱施設等の監視・指導に努めるとともに、市民の食品衛生意識の普及・啓発を図る。

#### 3) 環境衛生対策

来場者等に清潔で快適な環境を提供するため、関係機関はもとより、広く市民の協力を得て、宿泊施設の衛生対策、廃棄物の適切な処理、衛生害虫等の駆除、飲料水の衛生対策、動物の適正管理等に努めるとともに、市民の環境衛生思想の普及・啓発を図る。

#### 第4節 警備・その他安全対策

本市を訪れるチームの国や地域で抱えている背景や事情を十分に考慮し、熱狂的な支持者等が選手のプライバシーやトレーニング時間を侵害しないよう、アスリートファーストで警備体制の確保に努める。

また、犯罪、事故並びに火災、その他の災害を未然に防止するとともに、災害発生時の被害を軽減するため、警備・消防体制の確立を図り、安全かつ円滑なキャンプ運営が行われるよう万全を期する。

#### 第5節 レジャー・文化

RWC2019は、日本国内で約7週間に渡り開催され、大会期間中、選手団やその家族、多くのマスコミ等が日本を訪れる。

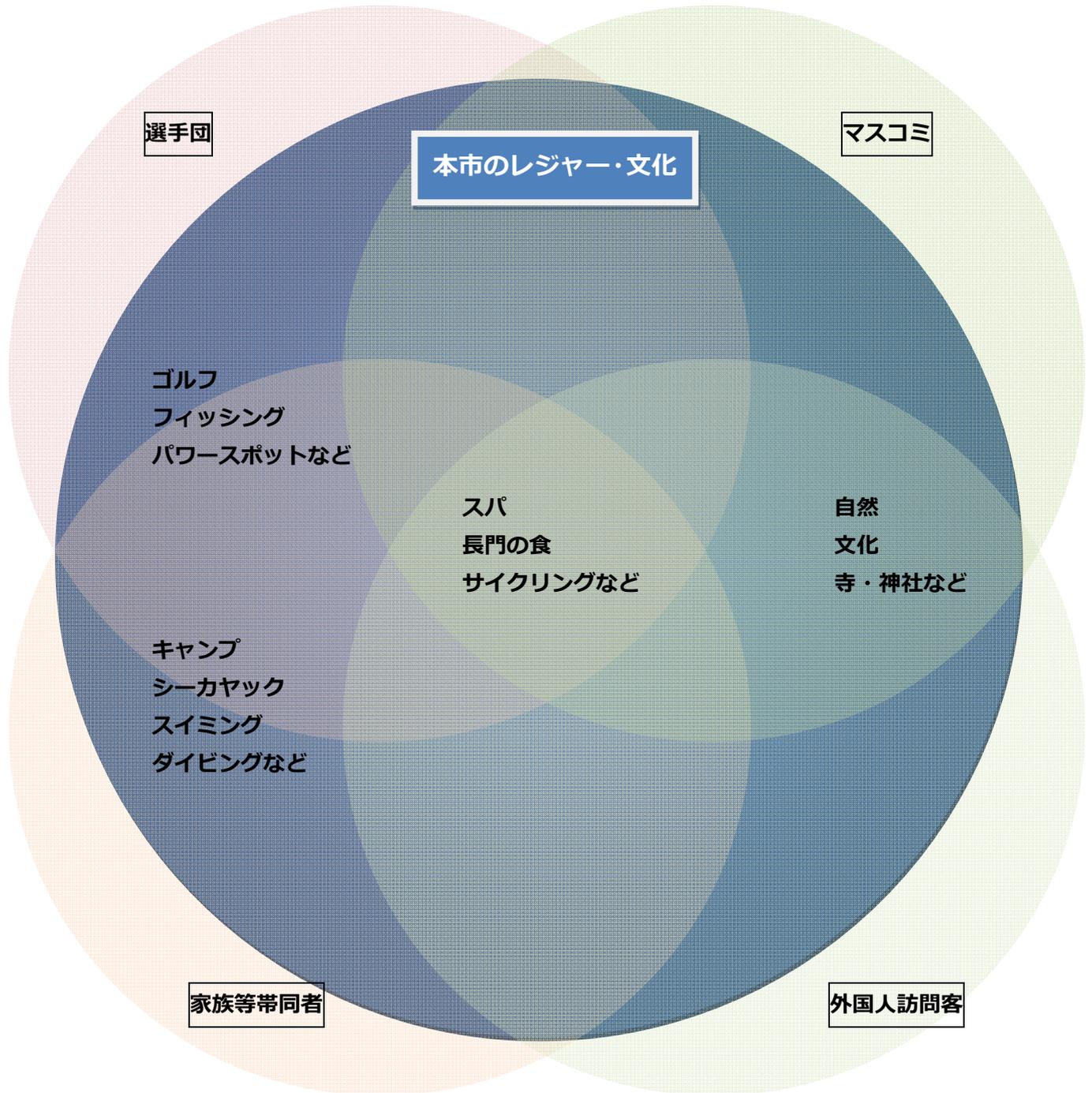
本市で提供可能なレジャー・文化などの様々なコンテンツを、選手団やその家族、マスコミ、外国人訪問客などで提供するカテゴリーを絞り込み、それぞれにターゲットを定め、キャンプ実施の有無に限らず、国や山口県等の関係機関と連携し、国内外に積極的にPRする。

特に、選手団に対しては、キャンプ招致の決定までは、キャンプのメイン施設やサポート施設、宿泊施設とこれらのレジャーや文化を含めた長門市全域がキャンプ地であることを売り込み、市内全域で選手団をサポートすることとする。

#### 【提供可能なレジャーや文化などのコンテンツ】

- スパ（湯本温泉・俵山温泉・湯免温泉・黄波戸温泉・油谷湾温泉）
- スイミング（青海島・只の浜・七重川河川公園・松島・二位ノ浜・大浜・伊上海浜公園YYビーチ350など）
- ゴルフ（日置ブルーラインCC・豊田湖GC）
- フィッシング（紫津浦・野波瀬など）
- ダイビング（青海島）
- サイクリング（向津具半島・国道191号線など）
- シーカヤック（ポニーベイ）
- キャンプ（高山・青海島・松島・千畳敷・二位ノ浜・油谷湾など）
- 自然（北長門海岸国定公園・波の橋立・千畳敷など）
- 寺・神社（大寧寺・能満寺・向岸寺・向徳禅寺など）
- 長門の食（長州黒かしわ・長州ながと和牛など「ながとブランド」）
- 文化（香月泰男・金子みすゞ・近松門左衛門・村田清風・萩焼など）
- パワースポット（麻羅観音・元乃隅稻成神社「龍宮の潮吹き」・仁尊院「楊貴妃の里」・立石観音・俵島など）

コンテンツ別、ターゲットイメージ図



## 第4章 招致における効果

RWC2019は、2019年9月20日（金）～同11月2日（土）の約7週間に渡り、日本全国の12会場で48試合が開催される。

2013年10月からRWC2019の開催都市決定に向けたプロセスが始まり、参加意思表明を示した自治体は60を超えた。

それら自治体・地域が招致活動に着目する理由として、まずは経済効果が大きいことが挙げられる。

ファシリティ整備などの投資効果はもちろん、選手やスタッフ、多くのマスコミや観客が来訪することから、宿泊・買物等の観光消費によって大きな経済効果を生み出す。

また、物やサービスが消費されることで、地域内の産業振興につながり、雇用が生まれ、住民の所得が増え、税収の増加に繋がる効果が見込まれる。

引き受けにより地域の知名度が上がるため、イベントがない時期は、練習やスポーツ合宿地として競技者が来訪する効果も期待できる。

次に、社会的効果も大きいことが挙げられる。

選手団やマスコミなど、国内外からの来訪者が流入することにより、住民と観光客との交流が生まれ、地域コミュニティが活性化する効果が期待できる。

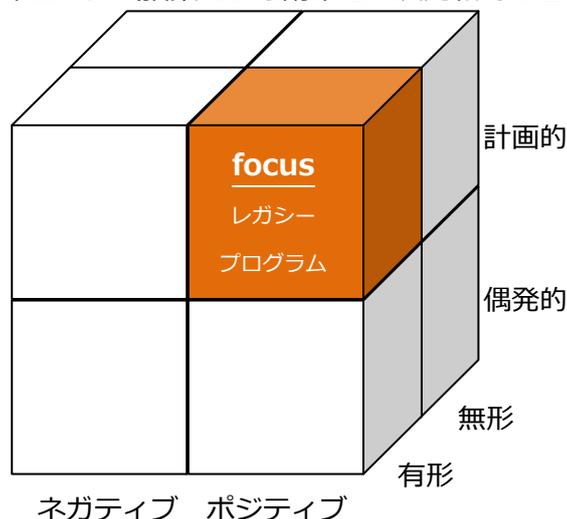
また、キャンプ実施時には、住民がボランティア等に参加することで、一体感や連帯感、達成感を生みだし、さらに、多世代交流を促進する効果が期待できる。

さらに、生涯スポーツに親しむ環境が整備されることで、住民の健康増進が図られ、観光・交流を通じて地域のファンが増えることにより、市外居住者等の本市定住意欲促進へと繋がる効果も期待できる。

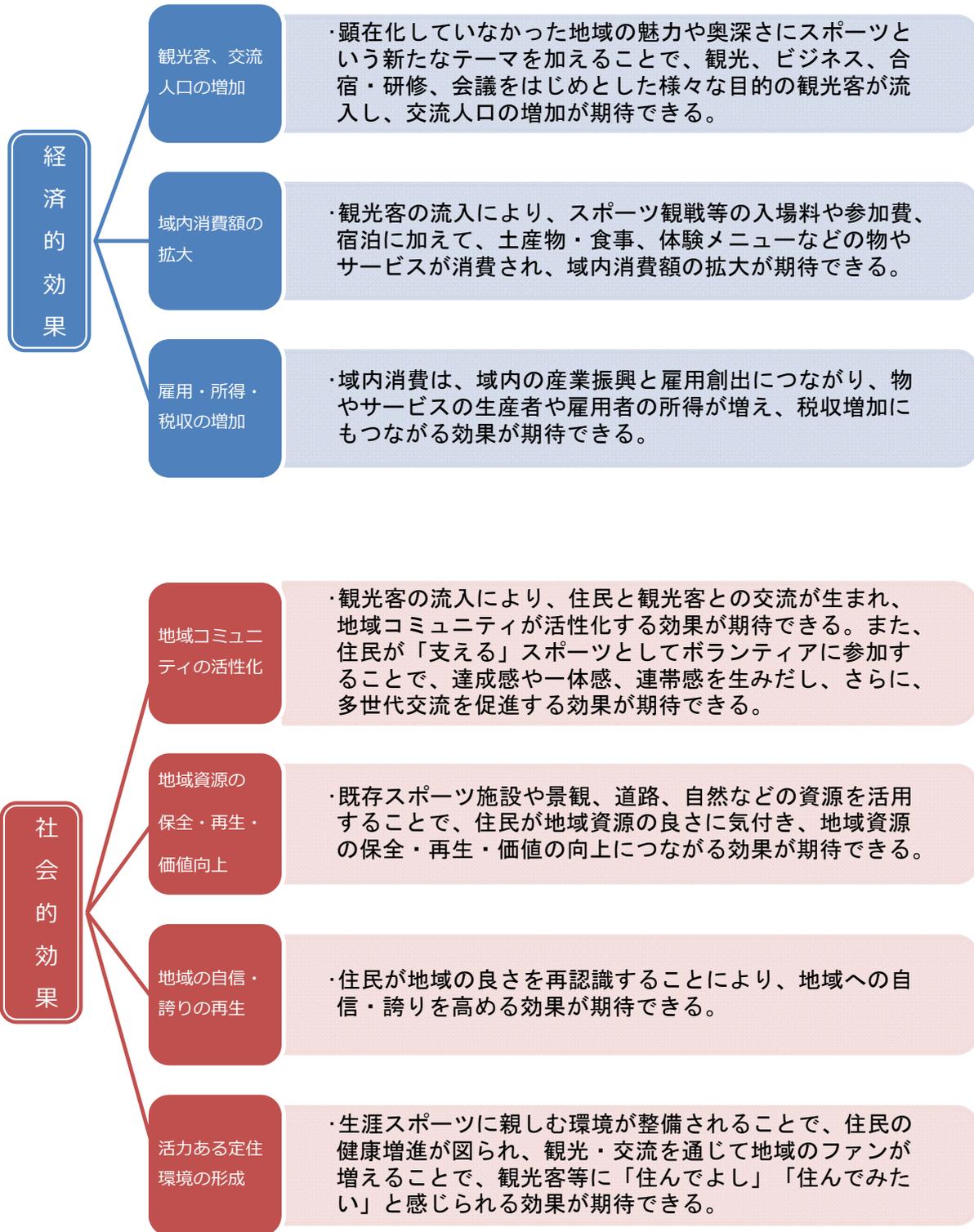
これら「経済的効果」や「社会的効果」には、事前計画により計画的に産出されるものやキャンプ招致の実施段階で偶発的に生じるもの、スポーツ施設等のように恒久施設として形の残るものや地域コミュニティのように形の無いものなど様々なものが挙げられる。

これらの効果をより大きく、永く、未来へと継承するものとするためには、レガシー・キューブ（下図）に見るポジティブ思考で捉えて計画した有形遺産を中心に焦点を当てた『レガシーアクションプラン』（次章）を入念に検討する必要がある。

レガシー・キューブ（招致による効果を三次元軸的にとらえた図）



招致における効果



## 第5章 レガシーアクションプラン

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックは、世界最大級のスポーツの祭典であるとともに、多くの分野で持続的に地域に良い効果をもたらすことが期待されている。

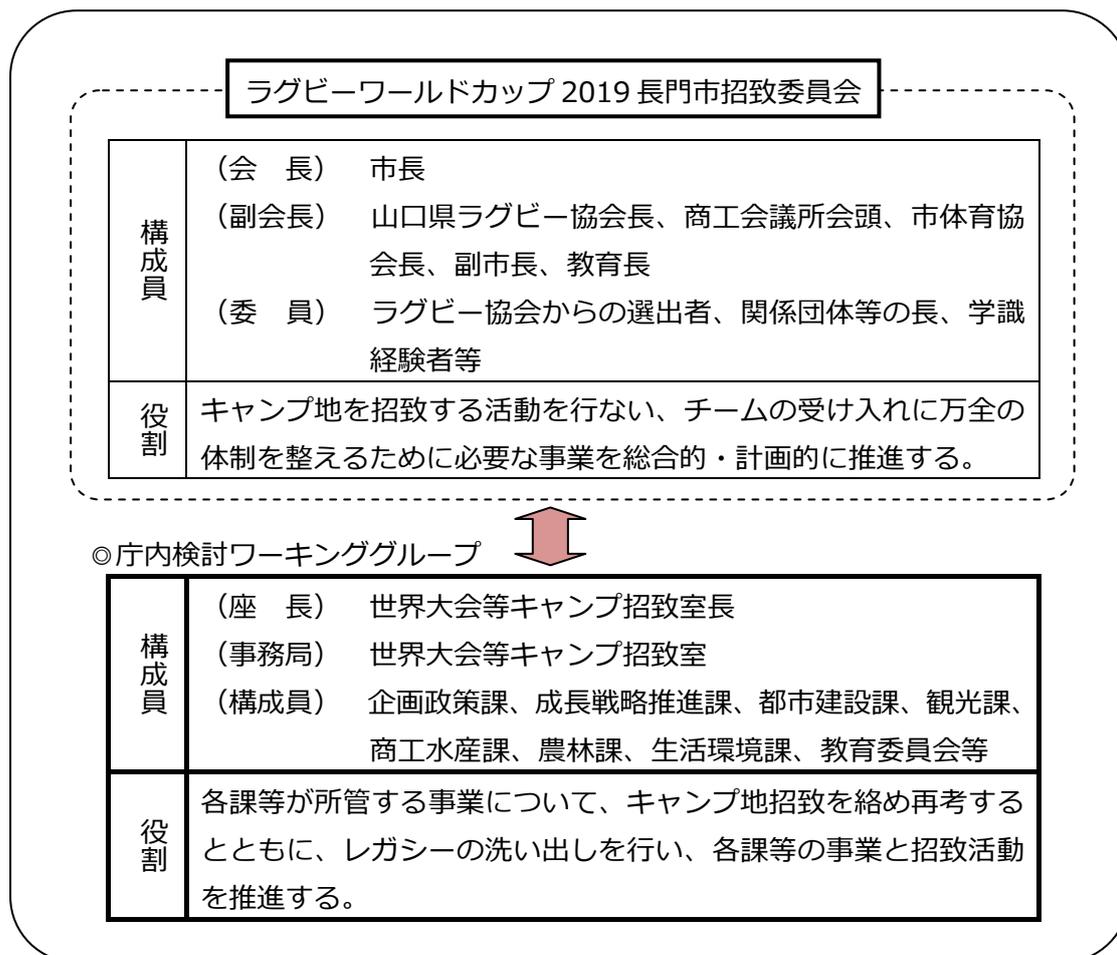
こうした効果は、「レガシー」と呼ばれ、スポーツ、文化、教育、環境、都市、経済などの幅広い分野で未来へ遺すことが重視されている。

本市においても、キャンプ招致という明確な目標を設定することで、実現のハードルが高い課題の解決やイノベーションを一気に加速する好機になると考える。

産官学・異業種が一体となった招致委員会や市内の各種団体等が連携し、「チームながと」で本市の課題解決に取り組むことが重要と考える。

これらを踏まえて、『レガシーアクションプラン』に盛り込むべき、具体的なレガシー事業・施策を創造するプラットフォームとして、市役所内へ「世界大会等キャンプ招致庁内検討ワーキンググループ」を設立し、レガシーを洗い出し、関係機関に提案するとともに、その中に含まれる事業・施策のいくつかを能動的に創り出すことを目標とする。

### ◆庁内検討チーム組織図（案）



## 第6章 推進体制

キャンプ招致の成功には、基本理念（ビジョン）を関係者全員で共有し、節目毎の目標を着実に達成できるよう関係者で連携して取り組むことが重要である。

今後は、組織委員会からガイドラインが示され、キャンプに関わる業務の詳細が見えてくることから、組織委員会との連携を密にしながら、国や山口県をはじめ、関係団体と連携・調整を図り、責任と役割分担等を明確にし、業務を進捗していくこととする。

### 第1節 組織等の連携

本市における世界大会等キャンプ地の招致活動は、大きなチャレンジでもある。

その規模と運営の複雑さにおいて他のスポーツイベントに類を見ない施設整備や運営上の要件を的確に理解し、関係機関との役割と責任を明確に定めるとともに、様々な資源を調達して、限られた時間の中で着実に準備を進めなければならない。

また、招致の成功には、市民の機運醸成と候補都市としての独自性や特質を十分に認識し、特有の課題に対して適切な解決策を見出していくことが求められる。

スポーツを超え、文化、教育、持続可能性、アクセシビリティ、安全・安心な街づくりなど、未来へ繋がる都市整備の様々な側面に関わるとともに、将来に大きなインパクトを与え有形・無形のレガシーを残すこととなり、まさに関係者の総力を結集しての対応が求められる。

このことから、招致活動にあたっては、招致成功という共通の目標の下、関係者が一致団結して取り組まなければならない、関係者間の連携・協力が不可欠である。

招致委員会が中心となって関係機関相互の連携を図り、計画・準備・運営をリードしていくこととする。

#### (1) 組織委員会との連携

キャンプ地に関するトレンドは、ワールドカップが開催される4年毎に見直され、チームの要望等も多岐の分野に渡ることが予想されることから、組織委員会との連携を密にしながら、キャンプ地に関する的確な情報収集と参加チームに対する柔軟な対応ができる体制を構築し、計画を推進する。

#### (2) 競技団体との連携

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会の新ビジョン『WE ARE RUGBY FAMILY～「ノーサイドの精神」を、日本へ、世界へ。～』に基づき、ラグビーファミリーの増大と日本ラグビーの国際力を高める取組に協力しながら、競技団体と連携し、キャンプ招致活動に取り組む体制を構築し、計画を推進する。

#### (3) 山口県との連携

世界各国からの関係者を迎えるには、諸国の持つ情勢や背景等に配慮しながらも、「アスリートファースト」でキャンプ地を引き受ける体制を整える必要があり、山口県並びに山口県と関係市町で構成する誘致組織等の関係団体とも連携し、計画を推進する。

## (4) 招致委員会内の連携

山口県ラグビーフットボール協会などの関係機関や地域住民団体等の各種団体で組織する招致委員会内の団体間相互の交流を促進するとともに、各団体の役割分担を明確にし、計画を推進する。

## (5) 行政の連携

計画の実現には、スポーツの持つ多様な効果を十分に活用するため、スポーツ分野に限らず、文化、教育、環境、都市、経済等の各分野の施策との連携も図りつつ、国や山口県をはじめ、関係自治体との緊密な連携・協力のもとで計画の推進を図る。

また、開催都市や山口県内の世界大会等キャンプ招致に取り組む自治体との情報共有や連携を取り、キャンプ招致成功へ向けた取組を推進する。

## 第2節 キャンプ招致成功へ向けたロードマップ

本市のキャンプ招致実現へ向けたロードマップは、大会開催準備から終了後のレガシーに至るまでのプロセスを総体的にまとめたものである。

ロードマップは、以下の5つのフェーズで遂行する業務を示しており、キャンプ招致の成功とその後に関わるレガシーの行程を理解するための指標とする。

## ◆第1フェーズ「基礎フェーズ」(2011年～2015年3月)

長門市がRWC2019キャンプ招致に名乗りを上げ、平成25年6月27日に招致委員会を設立し、「我がまちスポーツ」としてラグビーフットボール競技の普及と定着を図り、キャンプ招致活動の機運醸成を行う基礎段階であり、以下の活動を行った。

- ラグビーを『我がまちスポーツ』とする競技の普及と定着、ラグビーによる地域経済の活性化の取組を行った。
- 長門市スポーツ合宿奨励金制度を創設し、合宿地としての依山多目的交流広場の認知度アップと地域経済の活性化に繋がる取組を行った。
- ラグビーワールドカップ2019招致委員会を設立した。
- 招致サポータークラブ『ナガミークラブ』を設け、市民の機運醸成を図った。
- 長門市に縁のある著名人に『招致委員会アドバイザー』を委嘱し、招致活動の広報啓発を行った。
- 先進地の事例調査や関係者からのヒアリング、施設整備に要する概算費用を算出する「キャンプ招致基礎調査」を行った。

## ◆第2フェーズ「調査企画フェーズ」(2015年4月～2017年3月)

本基本計画をベースにキャンプ招致に必要な施設の精査やキャンプ来訪者へのサービスなど調査・研究を行うとともに、キャンプ招致のプロモーション活動を加速化させる。

組織委員会から公認チームキャンプ地として選定されるために必要な具体的な準備に着手する段階であり、以下の活動を行う。

- 長門市企画総務部 企画政策課へ世界大会等キャンプ招致室を設置した。
- ハード・ソフト両面の調査・研究のためRWC2015イングランド大会を視察した。

- 交流施設の計画的な整備やキャンプ実施時に必要となる運営体制の確立を推進するため本計画を策定した。
- ニーズに応じた具体的な施設整備の精査と基本設計を行うなど整備を着実に進める。
- 大会レガシーのひとつとなる施設整備について、実行段階へ移すための実施設計等を行い、大規模イベントの誘致を含めた施設の長期利用計画を立案する。
- チームキャンプの運営面について、柔軟な対応ができるよう準備する。
- Tokyo2020公認キャンプ地に認定されるために必要な事項をクリアする。
- RWC2019公認キャンプ地に認定されるために必要な事項をクリアする。
- 施設整備に係る補助メニューを精査する。
- RWC2015イングランド大会上位12チームに対し、積極的なアプローチを行う。
- 招致活動を様々な取組に活用する「レガシーアクションプラン」の研究を進める。

#### ◆第3フェーズ「実践準備フェーズ」（2017年4月～2019年3月）

2017年秋頃にRWC2019大会スケジュールが発表され、同時期から地区予選がスタートすることからキャンプ招致活動の加速化が想定される時期となる。

調査企画フェーズで精査した施設整備を実行段階に移すとともに、同年冬頃からは、チーム視察の受け入れも始まり、キャンプ地の決定も行われる段階と予定されており、積極的なプロモーション活動と効率的な施設整備を行うため、以下の活動を行う。

- キャンプ招致等に必要な施設整備を実施するが、チーム視察の受け入れや通常の合宿受け入れ等に柔軟な対応ができるように調整する。
- レガシーアクションプランに基づいた様々な取組を開始する。
- キャンプ地の公認を受けた後には大会ロゴ等を活用した積極的な広報活動を行う。
- 開催都市と連携強化を図り、各国へのプロモーション活動を積極的に行い、前年キャンプの呼び込みを行う。
- 運営準備の演習を実施し、計画をテスト・評価・改善する。
- キャンプ運営へ向けた効果的・効率的な仮設施設の整備について検討する。
- 競技用具の計画的な調達を行う。
- チケット販売をサポートする。

#### ◆第4フェーズ「キャンプ実践フェーズ」（2019年4月～2020年9月）

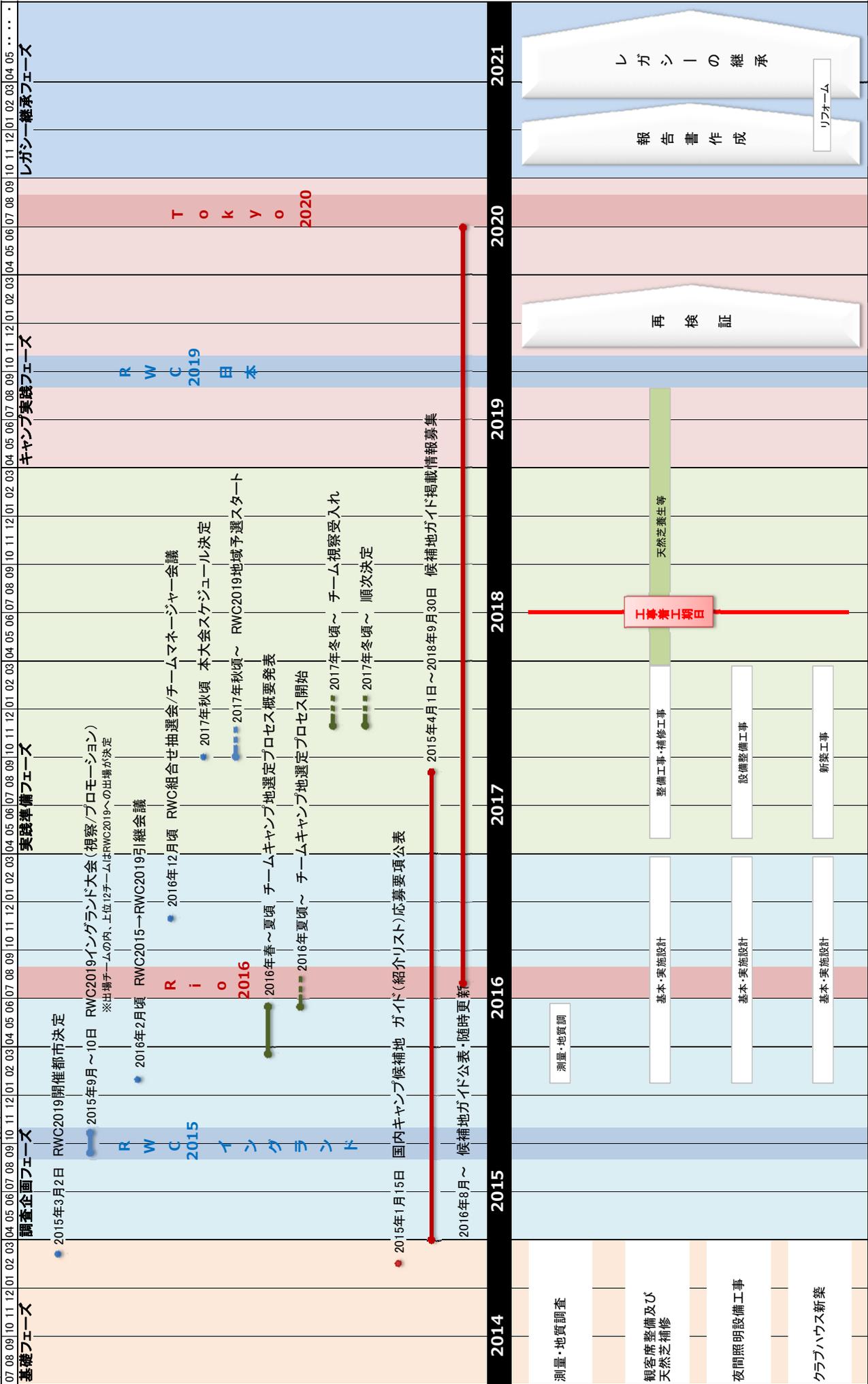
関係者が緊密な連携のもと、協力してキャンプを運営し、市民一体となってキャンプチームを応援し、キャンプチームを優勝へと導き、キャンプ招致を成功に収める段階である。

#### ◆第5フェーズ「レガシー継承フェーズ」（2020年10月～）

キャンプ運営の終結、仮設施設等の原状復旧や返還に取り組むとともに、大会のフィードバックや評価などをまとめた報告書を作成する。

レガシーアクションプランに関する評価をまとめるとともに、大会後のレガシーをより永く後世へと継承できるよう整える。

ラグビーワールドカップ2019キャンプ招致成功へ向けたロードマップ



### 第3節 計画の見直し及び進捗管理

本計画は、組織委員会からガイドラインが示された段階で見直しを行うものとし、進捗管理については、企画政策課世界大会等キャンプ招致室において進捗状況の確認・評価を行い、招致委員会において報告し、意見を求めるものとする。

◆ 参考資料

- ・ラグビーワールドカップ 2019 キャンプ招致基礎調査業務報告書  
2015年3月 長門市、八千代エンジニアリング株式会社

◆ 使用した主な図書等

- ・「ラグビーワールドカップが開催国に与える経済効果」  
2008年9月 IRB、Deloitte
- ・「国際的スポーツイベントの誘致による地域社会への波及効果についての提言」  
2013年5月 公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会
- ・「中国経済白書 2013 スポーツによる地域経済活性化」  
2013年9月 公益社団法人中国地方総合研究センター
- ・『「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会レガシー」に関する提言』  
2014年12月 プラチナ社会研究会レガシー共創協議会
- ・「Tokyo2020 事前トレーニング（キャンプ）候補地ガイド（紹介リスト）掲載応募要項」  
2015年1月 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- ・「東京 2020 大会開催基本計画」  
2015年2月 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会